

概要報告：双葉郡内の学習支援に関するニーズ調査について

2015年4月30日

1. 目的

「どこにいても双葉郡の子」という考えのもと、避難している子供たちの学校や地域・家庭での学習の現状や学習支援等へのご要望を把握することで、今後の学習支援等の実施に向けた計画づくりに反映する

2. 検討する内容

- 双葉郡各町村が各地で開設中、または新設予定の学習支援拠点施設を相互に活用することを通じ、子供たちの学力補充と家庭学習の補助（まずは、区域外就学の児童生徒が多い、いわき市内において取り組むことを検討するためのアンケートを実施）
- 子供たちが自らの夢を見だし、さらに学びを深める機会の開催

3. アンケートの実施

- 実施時期：2014年10月
- 対象：双葉郡8町村各家庭（町村広報物に同封して送付）
- 形式：文書によるアンケート（選択・自由記入式、記名あり）

4. アンケート結果

- 回答数：28件
- 困っていること
 - 授業についていけない、家庭学習の習慣がつかない、親は時間が無かったり内容が難しくかったりしてなかなか教えられない、など
- 学習支援拠点があれば通わせたいか（通わせたい：22件）
 - 遅れている分の学習や基礎的なことの学び直し、学校の復習と応用などを支援してほしいという声が多い
 - ひとり学習や親とだけでなく友達とのグループワークになるといい、集団行動を通じて課題解決力を身につけさせたい、といった理由も見られた。さらに、双葉郡の子供たちと勉強することにより郷土に対する愛着が出るのでは、という意見もあった
 - 家計の事情や子どもが行きたがらないなどの理由で、塾以外の場所を求めている

- ▶ 一方、通わせないと答えた回答としては、今の環境を変えることへの不安や、送迎が困難、等の理由があがった。ただし、長期休暇（夏休み、冬休み、春休み）には通わせたいという意見もあった
- 家庭学習の補助や、学ぶ意欲を引き出したり将来必要とされる力を身につけさせたりするような取組に魅力を感じるか（魅力を感じる：26件）
 - ▶ 子どものやる気スイッチ、学習意欲のきっかけ、将来の夢や希望を持つきっかけがほしい、という回答が多数。そのきっかけを親だけで作り出すことへの難しさを感じているという声もあった
- 希望する学習支援拠点の地域について（いわきエリアについて聴取）
 - ▶ 少数ではあるが、好間地区（5件）のほか、内郷、湯本、小名浜、その他への開設希望が出された

5. 今後の対応策（案）

- いわき中央台「空の家」（檜葉町）、いわき南台応急仮設住宅集会所（双葉町）に続く、好間方面での学習支援拠点の新設について、大熊町にて検討中
- 「子供たちが自らの夢を見だし、学びを深める機会」については、昨年9月のふたばワールドでの小泉進次郎氏・和合亮一氏による授業や昨年12月のふるさと創造学サミットにおける乙武洋匡氏による授業を実施。「ふたばの教育復興応援団」など外部講師による課外授業は今後も開催していく予定

以上